

## 個人防護用備品(PPE)の取り扱い

作成日:2022/5/〇 改定日:2022/7/〇

目的	使用する作業によってPPEの選択、使用法は異なる。本標準作業手順書においてはPPEの一般的な取り扱いと使用するべき状況を規定する。
手順	<p>1. PPEの一般的取り扱い</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・PPEはメーカーの指定する用途、保管方法に従う。</li><li>・全ての従業員は、従業員自身の負担なく、業務において必要なPPEを充分に支給される。</li><li>・全ての従業員は、適切なPPEの選択、装着に関する研修を受講する。</li></ul> <p>2. 適切なPPEの選択</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・PPEは装着者が想定する最大のハザードに対応できるよう選択する。</li><li>・PPEは装着者のサイズに合うものを選択する。</li><li>・PPEを装着する前、使用している最中は劣化に注意し、破損した場合は直ちに破棄・取り換える。</li></ul> <p>3. PPE種別による使用方法</p> <p>○手指の保護</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・手指の保護には様々な手袋が想定される。(例:素材、サイズ、形状による違い)</li><li>・手袋は、手指を保護する危険に対応できるように選択する。 最低限でも下記の要素に考慮する。<ol style="list-style-type: none"><li>1. 扱う薬品の種類</li><li>2. 接触する方法(薬品に手を浸すのか、飛沫なのか)</li><li>3. 接触する長さ</li><li>4. 保護する範囲(指先のみか、前腕部か)</li><li>5. 必要なグリップ</li><li>6. 温度への耐性</li><li>7. サイズ</li><li>8. 摩耗への耐性</li></ol></li><li>・従業員が針、血液、排泄物等に接触することが想定される場合、ゴムあるいは革手袋を用意する。</li><li>・革手袋の類は使用の後に消毒する。</li><li>・使い捨ての手袋は、破損、汚染、あるいはその他本来の用途に使用できない状況になった際は可能な限り早く取り換える。</li><li>・使い捨て手袋は消毒して再利用しない。</li><li>・従業員の求めに応じて抗アレルギーや布製などの手袋を用意する。</li></ul> <p>○目の保護</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・粒子等によって目が傷つく可能性がある場合、安全眼鏡を用意する。</li><li>・薬品の飛沫等によって目が傷つく可能性がある場合、安全眼鏡を用意する。</li><li>・追加の保護が必要な場合、ゴーグルを装着する。</li></ul>

- ・夜間に装着する安全眼鏡等は無着色のものを用意する。
- ・外での作業の際には着色された安全眼鏡を装着して良い。

#### ○胴体の保護

- ・代替不可能な特定の業務において、けがもしくは薬品等への接触が想定される場合、従業員は胴体の保護具を装着する。
- ・胴体保護のPPEは想定される危険性に応じて選択する。

##### 1. 紙製オーバーオール

埃や腐食性のない薬品に対して使用することができる使い捨てタイプのPPE

##### 2. 難燃性服

溶接やはんだ付け等を伴う作業に用いることができる。

#### ○呼吸器の保護

- ・粒子や飛沫によるリスクが想定される場合、防護マスクを用いた軽減策を講じる。
- ・汚染物質を含む場所や、十分なフィルター性を有していないなど、環境に相応しい防護マスクを用意できない場合、作業にあたらぬ。

#### ○耳の保護

- ・想定される騒音リスクに応じて耳の保護具を選択する。
- ・耳の保護具を装着している全従業員は、騒音が想定される場所に入る前にしっかり装着されているか確認する。
- ・耳の保護具は騒音地帯にいる間常に装着する。

# 一般除菌マニュアル

作成日:2022/5/〇 改定日:2022/7/〇

<b>目的</b>	本標準作業手順書では施設管理部スタッフに対して、施設における除菌手順を示している。清掃前後の除菌の際は本手順に従い、フロア清掃マニュアル、トイレ清掃マニュアル等、他の清掃手順と一緒に利用する。
<b>手順</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 安全に関する手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 清掃業務を行う前に、業務に使用する用具及び薬品を把握する。</li></ol></li><li>2. 一般ガイドライン<ol style="list-style-type: none"><li>A) 大気中に薬品が滞留するリスクを軽減するために、可能な限り薬品は対象に直接吹きかける。</li><li>B) 薬品による汚染を避けるため、手袋は頻繁に取り換える。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 手袋の色に変化が見られた場合は取り換える。</li><li>ii. 手袋が破損した場合は取り換える。<ol style="list-style-type: none"><li>1. 手袋を取り換える際に、従業員は手袋を外してから可能な限り早く手を洗う。</li></ol></li></ol></li><li>C) トイレなど、空気の循環が十分でない環境で清掃作業を行う場合、ドアを開放するなどして空気の循環を確保する。 <b>D) 消毒作業を行う際には、手袋やマスク等の个人防护用備品(PPE)を着用する。</b></li></ol></li><li>3. 清掃前の除菌<ol style="list-style-type: none"><li>A) 従業員が清掃を行う前に、該当するエリアの除菌が必要となる場合がある。</li><li>B) 体液を通じた感染リスクの軽減を図るとき、この作業が必要となる。</li><li>C) 注意: 除菌が済んでも、該当箇所が清潔になったとは限らない。</li></ol></li><li>4. 清掃後の除菌<ol style="list-style-type: none"><li>A) 作業上の誤りによって、清掃後に再度除菌が必要となる場合がある。</li><li>B) 該当箇所が「手洗い清掃・除菌マニュアル」「床清掃・除菌マニュアル」等に則って清掃・除菌されたあとも、同様のことが生じる可能性がある。</li></ol></li><li>5. 全面除菌<ol style="list-style-type: none"><li>A) 該当箇所の全面除菌が必要となる場合がある。</li><li>B) これは時間的制約から、除菌のみを行う場合が想定される。</li><li>C) 会議室での催事が休憩に入った際などが想定される。</li><li>D) 催事の休憩中、施設サービススタッフは対象エリアや対象物の除菌を行うことができる。</li></ol></li><li>6. 除菌手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 常に適切なPPEを使用する。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 業務を行うために必要な用具等を用意する。</li></ol></li><li>B) 除菌するエリアや対象物を観察する。<ol style="list-style-type: none"><li>i. あらゆる表面を観察し、特別な処置が必要か確認する。</li></ol></li><li>C) エリアを封鎖する。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 除菌中、除菌スタッフ・チーム以外はそのエリアに入らない。</li></ol></li><li>D) 電動噴霧器</li></ol></li></ol>

- i. 対象エリアから、目立つ物体、土やごみを取り除く。
- ii. 薬品が、定められた推奨滞留時間 (Dwell time) まで滞留する  
ように、適切なスプレー形状を選択する。
- iii. エリアの奥から出口側へと移動しながら作業する。  
上から下へゆっくりと噴霧し、薬品がかからないエリアが残らないよう  
作業する。

※赤字は、標準作業手順書への記載を必須とする。

# フロア清掃マニュアル

作成日:2022/5/〇 改定日:2022/7/〇

目的	本標準作業手順書では床上の清掃に関する一般的な手順を示している。この手順はプラスチック、木材、金属等の床面素材の清掃に対応する。
手順	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 安全に関する手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 清掃業務を行う前に、業務に使用する用具及び薬品を把握する。</li></ol></li><li>2. 床上清掃用品<ol style="list-style-type: none"><li>A) 清掃薬品<ol style="list-style-type: none"><li>i. 本施設では、一般的な清掃の際に、〇〇を使用している。特に指示がない限り、すべてのクリーニング作業に以下の洗浄液を使用する:<ol style="list-style-type: none"><li>1. 一般清掃:〇〇</li><li>2. ガラス面とステンレス面の清掃:〇〇</li></ol></li></ol></li><li>B) マイクロファイバークリーニングクロス<ol style="list-style-type: none"><li>i. 本施設では、マイクロファイバークリーニングクロスを用途に応じて色分けして使用している。<ol style="list-style-type: none"><li>1. 緑- 壁、台座、仕切り、ゴミ箱、カウンター、タッチポイントなどの一般的な清掃に使用</li><li>2. 青-ガラス面及びステンレス面に使用</li><li>3. 赤-トイレに使用</li></ol></li><li>ii. すべてのクリーニングクロスは類似の色物と一緒に洗濯し、赤いクロスは他の洗濯物とは別に洗濯する。</li></ol></li><li>C) 掃除機<ol style="list-style-type: none"><li>i.排気による汚染を防ぐため、HEPAフィルタ付の掃除機を使用する。</li></ol></li></ol></li><li>3. 一般作業手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 毎日の清掃等、清掃業務の開始時に、新しいクリーニングクロスを使用する。</li><li>B) クリーニングクロスは、洗剤がしみこまなくなったときに、新しい布に交換する。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 使用した布は再利用のために保管する。</li></ol></li><li>C) 清掃は手順を踏んで行われる。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 汚れや微生物を拡散させないように、よりきれいな面からより汚れた面に向かって清掃していく。<ol style="list-style-type: none"><li>1. 高頻度に触れられる表面の前に低頻度に触れられる表面を清掃</li><li>2. トイレの前に公共エリアを清掃</li><li>3. 共用部では、共用エリアから、個々のエリアを清掃</li></ol></li><li>ii. 高所から低所に進むことで、汚れや微生物が落下し、すでに清掃されている箇所を汚染しないようにする。</li></ol></li></ol></li><li>4. 清掃手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 適切な洗浄液に新しいクロスを十分に浸す。</li><li>B) クリーニングクロスを手の大きさをいまでに折りたたむ。</li><li>C) 手順に沿って表面を清掃する。<ol style="list-style-type: none"><li>i. きれいな面から汚れた面へ</li><li>ii. 高所から低所へ</li></ol></li></ol></li></ol>

iii. 掃除の手順に沿って清掃を行い、また、消毒のために清掃表面が完全に濡れていることを確認する。

D) 定期的クリーニングクロスを折り直して新しい側面を使用する。

E) 布の裏地を使い切った場合や、洗浄液が乾いた場合は、クロスを廃棄するか、再利用のため保管する。

F) 他のエリアの清掃でも最初の手順を繰り返す。

※赤字は、標準作業手順書への記載を必須とする。

# トイレ清掃マニュアル

作成日: 2022/5/〇 改定日: 2022/7/〇

目的	本標準作業手順書では施設管理スタッフにトイレの清掃・除菌に関する手順を示す。
手順	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 安全に関する手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 清掃業務を行う前に、業務に使用する用具及び薬品を把握する。</li></ol></li><li>2. 一般作業手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 定例の清掃を含む、清掃業務の開始時に、新しいクリーニングクロスを使用する。</li><li>B) クリーニングクロスは、洗剤がしみこまなくなったときに、新しい布に交換する。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 使用した布は再利用のために保管する。</li></ol></li><li>C) 清掃は手順を踏んで行われる。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 汚れや微生物を拡散させないよう、よりきれいな面からより汚れた面に向かって清掃していく。<ol style="list-style-type: none"><li>1. 高頻度に触れられる表面の前に低頻度に触れられる表面を清掃</li><li>2. トイレの前に公共エリアを清掃</li><li>3. 共用部では、共用エリアから、個々のエリアを清掃</li></ol></li><li>ii. 高所から低所に進むことで、汚れや微生物が落下し、すでに清掃されている箇所を汚染しないようにする。</li></ol></li><li>D) 可能であれば、洗浄用の薬品を洗浄用ラグに直接噴霧し、薬品が大気中に放出することを減らす。</li><li>E) 二次汚染を減らすために、手袋を頻繁に交換する。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 色が変わった際は、直ちに手袋を交換する。</li></ol></li></ol></li><li>3. トイレ清掃手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 必ず適切なPPEを使用する。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 作業を行うために必要な道具等を集める。</li><li>ii. 清掃の際は、トイレのドアを開け、空気を十分に循環させる。</li><li>iii. トイレの入り口を清掃カート等で塞ぎ、掃除中に利用者が入らないようにする。</li></ol></li><li>B) トイレの目視<ol style="list-style-type: none"><li>i. トイレを目視し、特殊な手順が必要な清掃箇所に留意する。</li></ol></li><li>C) 壁、台座、仕切り<ol style="list-style-type: none"><li>i. 上部から下部に向けて清掃を行う。</li><li>ii. ダスターを使用して、天井、通気口、照明器具全体の埃を取り除く。</li><li>iii. ○○を使用してタイル壁を清掃する。</li><li>iv. ○○を緑色のクリーニングクロスで使用して、アルコールスタンド、台座、しきりを清掃する。<ol style="list-style-type: none"><li>1. ドア、蝶番、その他のタッチポイントの背面には特に留意する。</li></ol></li></ol></li><li>D) 消耗品<ol style="list-style-type: none"><li>i. ○○をつけた緑色のクリーニングクロスを使用して、トイレットペーパー、ペーパータオル、シートカバー、石鹸、衛生ナプキン、およびディスペンサーをすべて掃除する。<ol style="list-style-type: none"><li>1. ハンドル、取っ手、その他のタッチポイントには特に留意する。</li></ol></li><li>ii. 近くの備品倉庫に備品を補充する。</li></ol></li></ol></li></ol>

E) 鏡とステンレス面

- i. 青いクリーニングクロスと〇〇を使用して鏡やステンレス面を清掃する。

F) カウンター、手洗い場、おむつ交換台、ゴミ箱

- i. 緑のクリーニングクロスと〇〇を使用してすべてのカウンターとおむつ交換台を清掃する。
- ii. 緑のクリーニングクロスと〇〇を使用して手洗い場を清掃する。
  - 1. ゴミ箱を空にし、すべての容器を緑のクリーニングクロスと〇〇を使用して洗浄する。

G) 便器・小便器の清掃準備

- i. 小便器から消臭剤をすべて取り除き、溜まったゴミを捨てる。
- ii. すべての便器と小便器を洗い流して、きれいな水しか残らないようにする。
- iii. 便器と小便器の中に、十分な量の〇〇を入れ、10～15分間残す。

H) 便器・小便器

- i. 〇〇を残している間に、赤のクリーニングクロスと〇〇を使用して、便器と小便器(便器の外側)の掃除と消毒を開始する。
- ii. 赤のクリーニングクロスと〇〇を使用して、便器の底や小便器を含むすべての陶器を赤いマイクロファイバーのクロスで清掃する。
- iii. 赤のクリーニングクロスと〇〇を使用して、便座の上部と下側の縁を清掃する。
- iv. 緑のクリーニングクロスと〇〇を使用して、レバーなどのタッチポイントをすべて掃除する。

I) 便器内・小便器内

- i. 便器内・小便器内は、堆積物の蓄積を防ぐ、あるいは少なくとも緩慢にするために、きちんと掃除しなければならない。
- ii. 〇〇を10～15分間残した後、トイレブラシを使用して便器内を清掃する。
  - 1. 端や角の洗浄には赤のクリーニングクロスと〇〇を使用して、バクテリアに起因する臭気の発生を防ぐ。
- iii. 人肌に触れた際に怪我に繋がる可能性があるため、薬品を便器や小便器、タッチポイントに放置しない。

J) 床清掃

- i. 水拭きを開始する前に、ほうきとダストパンを使用して、乾いた床面清掃する。
- ii. トイレの奥から入り口に向かって、壁から真ん中に向かって掃く。
- iii. 次回清掃時に追加作業をすることになるため、汚れや汚染物を壁際に放置しない。

K) モップ掛け

- i. すべてのゴミが床から取り除かれていることを確認する。
- ii. 〇〇を使用して、フロア全体を清掃する。

L) 目視検査

- i. 清掃員は清掃した箇所を約30秒かけて目視する。
- ii. 催事清掃員は、他の箇所の清掃に移動する前に清掃した箇所を目視する。

※赤字は、標準作業手順書への記載を必須とする。

# タッチポイント清掃・除菌マニュアル

作成日:2022/5/〇 改定日:2022/7/〇

目的	本標準作業手順書では施設管理スタッフに表面除菌に関する手順を示す。タッチポイントとは、「フロア清掃マニュアル」で示された清掃箇所に付随するものである。通常の清掃プロセスとは別に、高い頻度で多数の人々が触れるタッチポイントの清掃・除菌の際には本手順に従うものとする。
手順	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 安全に関する手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 清掃業務を行う前に、業務に使用する用具及び薬品を把握する。</li></ol></li><li>2. 各種定義:<ol style="list-style-type: none"><li>A) タッチポイント:施設内のハイトラフィック/ハイコンタクトエリア。タッチポイントの例としては、取っ手、照明スイッチ、エレベータのボタンなどがある。</li><li>B) 清掃:表面からの汚れの除去。「クリーン」とは、汚れがないことを意味する。清掃は各種の洗浄剤を使用して行われる。</li><li>C) 消毒:雑菌コントロールの基本措置。公衆衛生基準に従えば十分安全と考えられる。使用する製品によって、消毒剤は微生物の50%~99.9%を殺菌する。一般的には、軽度な効果を持つ洗浄剤、除菌剤、殺菌剤を使用する。</li><li>D) 殺菌:適切な薬品によって消毒よりも多くの細菌を除去する。</li></ol></li><li>3. タッチポイントクリーニング手順<ol style="list-style-type: none"><li>A) 作業を行うために必要な道具等を集める。</li><li>B) 作業内容と行うべき頻度を把握する。<ol style="list-style-type: none"><li>i. 担当箇所に応じて様々なタッチポイントの組み合わせが存在する。</li><li>ii. 作業内容を熟知する。</li><li>iii. 必要に応じてリーダーや監督者に内容を聞く。</li></ol></li><li>C) 担当箇所のタッチポイントを特定する。</li><li>D) 手袋を着用する。</li><li>E) 緑のクリーニングクロスを適切な消毒液に浸す。</li><li>F) 表面を拭き取り、洗浄・消毒し、表面を濡らしたままにする。</li><li>G) 製品ラベルに記載されている所要の推奨滞留時間(Dwell time)の間、表面を濡れたままにする。</li><li>H) 所要の推奨滞留時間(Dwell time)が過ぎたら、残った清掃溶液をふき取り、乾いた状態にする。</li></ol></li></ol>

※赤字は、標準作業手順書への記載を必須とする。